

# 平成21年度 施策評価シート

## ◆総合計画における位置付け等

平成21年7月7日記入

基本目標	躍動し、魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31510
政策名(章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当局	環境経済局
基本施策名(節名)	第5節 都市農業の振興	施策所管課	農林課
施策名	安定した農業経営の確立	課長名	菅谷 一夫

## 1 施策の目的

安定した農業経営の確立に向け、経営体質の強化や農作業の効率化を進めるとともに、担い手である人材の育成・確保や生産・流通システムの構築を支援する。  
地産地消を推進するため、地場農産物の販売促進、販路拡大を図り、農業者の生産意欲を高める環境づくりを進める。  
津久井地域を中心として、鳥獣による農作物被害軽減のための対策を行う。

## 2 施策の概要

認定農業者の育成に対して助成するとともに、担い手となる人材の育成のため市農協と連携して援農システムの充実を図る。  
統一ブランド名「さがみはらのめぐみ」により、地場農産物のブランド化を進め、流通の促進を図る。  
鳥獣被害対策として、防護柵設置や捕獲、追い払いに要する経費に対して助成を行う。

## 3 事業費

(単位:千円)

年度	平成19年度(決算)	平成20年度(決算)	増減の主な理由
事業費	222,805	240,665	
人件費	24,150	25,760	
市民一人あたりの事業費(単位:円)	316	339	

\* 年間の人件費はH19、H20ともに805万円/年とし、人口は、70.6万人(H20.4.1現在)、71.0万人(H21.4.1現在)とした。

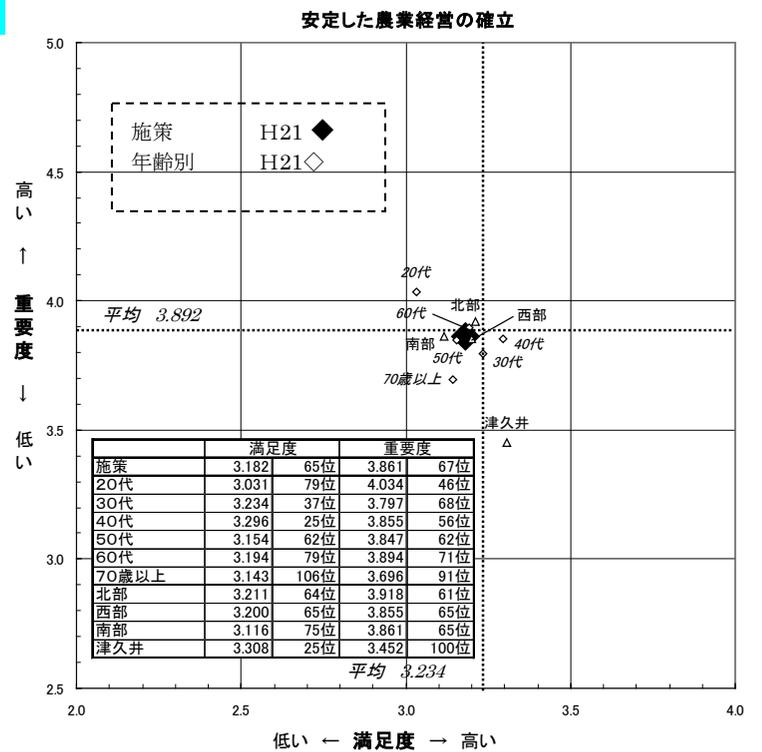
## 4 成果・活動指標

順位	指標名	指標の基準値の定義	目標値の考え方(根拠)
1	指標1 認定農業者数	認定農業者の数により、農業経営の効率化及び担い手となる人材の確保の度合いを計る。	過去5年間の認定農業者数の増加人数を勘案し、年間3名の増加を見込む。
	指標2 農業生産額	主要野菜の年間生産額により、市民への主要野菜の安定供給の度合いを計る。	過去7年間の農業生産額の増加割合を勘案し、年2.5%の金額の増加を見込む。
	指標3 鳥獣被害件数	鳥獣(シカ、イノシシ、サル等)による被害件数により、農作物被害の状況を計る。	過去3年間の鳥獣による被害件数を勘案し、平成17年度の最少被害件数43件を目標とする。
2	指標4 農業生産量	主要農畜産物の年間生産量により、市民への地場農畜産物の安定供給の度合いを計る。	平成26年までに5%の生産量増加目標として、年間約0.8%の増加を見込む。 (最終目標は平成31年までに10%の増加)
3	指標5 鳥獣農業被害面積	鳥獣(シカ、イノシシ、サル等)による農業被害面積により、農作物被害の状況を計る。	過去3年間の鳥獣による農業被害面積を勘案し、平均被害面積である1.54haを目標とする。

	基準年	基準値	H19		H20		H21		H22	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
指標1 (単位:人)	H17	137	143	148	151	154	154		157	
総事業費・人員 (単位:千円・人)	-	-	24,878	0.7	23,713	0.7				
指標2 (単位:)	H17	4,160	4,368	4,262	4,369		4,478		4,590	
総事業費・人員 (単位:千円・人)										
指標3 (単位:)	H17	43	43	71	43		43		43	
総事業費・人員 (単位:千円・人)	-	-								
指標4 (単位:t)	H20	25,342	-	-	-	25,342	27,400		29,600	
総事業費・人員 (単位:千円・人)	175,438	1.4	-	-	175,438	1.4				
指標5 (単位:ha)	H18	2.89	1.54	0.08	1.54	1.64	1.54		1.54	
総事業費・人員 (単位:千円・人)	22,823	0.9	34,331	0.9	41,514	1.1				

### 5 市民満足度調査結果(平成21年度実施分)

- この施策の満足度は3.182で全119施策の中で65番目。
- 重要度は3.861で67番目である。
- 改善要望度は0.015で61番目である。



### 6 1次評価(2つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	H20評価点	前回(H20)評価結果との比較分析 または優先順位の高い指標以外で評価した理由
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	④ 2 1	④ 2 1	
効率性	最小の経費で最大限の効果をえられるよう、効率的に事業を実施している	④ 2 1		※基準年が合併以前で、総事業費・人員が算出できないため、H19とH20の比較により効率性を評価した。
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立つて事業展開している	4 2 ①	4 2 ①	
合計		9		評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(9点以上) B(8点・7点・6点・5点) C(4点以下)
				1次評価 A

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

### 7 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	農業従事者の高齢化や後継者不足により、農家人口や耕作地が減少し、農地の遊休化・荒廃化進んでいる。 津久井地域においては、鳥獣被害の問題が生じており、被害対策が必要となっている。
解決策	効率的かつ安定的な農業経営展開を図る認定農業者を育成するとともに、担い手不足による労働力の不足を補うため、農業後継者・担い手育成をさらに推進する。 鳥獣対策として、有害鳥獣の駆除や防護柵設置に対する経費に対して助成を行い、農産物の安定生産を図る。

### 8 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

	2次評価 A
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

### 9 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価 A
--	-----------

\* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向